

教育目標 しっかり学ぶ子 思いやりのある子 粘り強い子
重点目標 学んだことを生かす子の育成

キーワード わかる気 その気 できる気



カムイット

猿払村立浅茅野小学校便り 令和4年9月30日

子どものほめ方しかり方～自分でできる子に育つ～

校長 芳賀重紀

誰もが自分の子には、自分のイメージした人間に育って欲しいと願っています。一緒に生活していると、悪いところばかりが目について、ついついしかってばかりになってはいないでしょうか。また、自分の都合で「早く早く」と急がせたりしてはいないでしょうか。感情的にしかってしまうと、子どもが納得できずに不信感が生まれてしまいます。今回は、子どものほめ方としかり方について、オックスフォード大学で児童心理学の研究をしている島村華子氏の著書をご紹介します。

子育ては、「条件付き子育て」と「無条件子育て」があるそうです。「条件付き子育て」は、ほらびと罰で子どもをコントロールする方法です。例えば、「ゲームばかりしているんだったら、どこにも連れて行ってあげないから。」などです。親の言うことを聞いていれば自分には価値がありありのままの自分には価値がないと思ってしまうそうです。そして、「親は本当に自分のことを愛してくれているのだろうか」と自己肯定感が低くなるそうです。やはり子育ては、長期的展望に立ったほめ方・しかり方である、無条件子育てが重要となります。ほめ方には次の3つがあるそうです。

- ×1 おざなりほめ（なんとなく、適当） ← 見てくれていないかと、モチベーションが低下
「この絵は、天才じゃない」「すごい、すごい」…どこが？…
- ×2 人中心ほめ（全人格） ← プレッシャーになり、チャレンジできなくなる
「あなたは、すばらしい」「才能あるもんね」…そうでない時もあるのに？…
- 3 プロセスほめ（努力や成長にフォーカス） ← さらによいプロセスを積み上げよう
「練習ずっと見てたよ。前よりうまくなったよね。」…モチベーションがあがる…

プロセスほめは、うまくいっている時もそうでない時もほめられます。子どもは、ちゃんと見てくれる人がいるんだと思い、さらに頑張ろうとするそうです。

<上手なほめ方の3つのポイント>

- 1 成果よりプロセス ← 点数や勝ったことだけでなく、取り組んできたことについても
- 2 具体的にほめる ← むやみにほめてしまうと自己評価とほめられた言葉のギャップで混乱
- 3 質問する ← ほめるところがわからなくなったときには、自由回答式 一問一答にしない

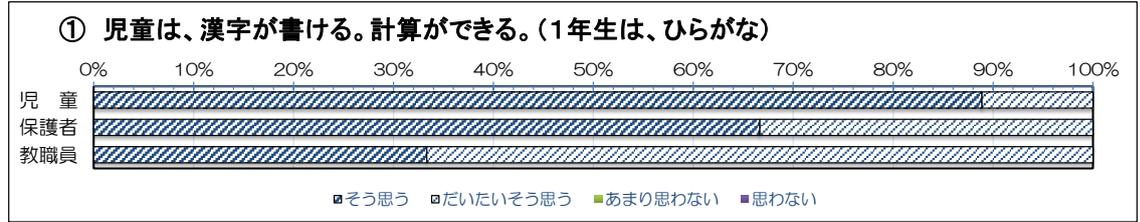
<上手なしかり方の4つのポイント>

- 1 だめ 違う をできるだけ使わない ← 頭ごなしに否定すると、子どもが矛盾を見つける
- 2 結果より努力やプロセス ← 「なぜ どうして してしまったの」 ← 理由を話させる
- 3 いけない理由を説明する ← 感情的にならずに、しっかり理由を説明して納得させる
- 4 気持ちを素直に伝える ← お母さんは悲しいよ

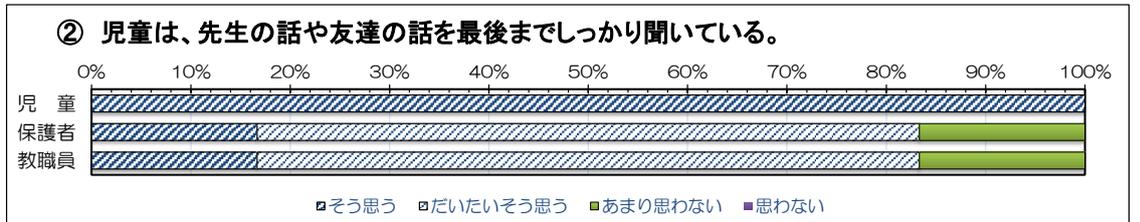
親は、いつまでたっても、自分の子どものことを、大丈夫かな。失敗するんじゃないか。と心配しています。しかし、子どもはどんどん、あっという間に成長していきます。ですから、どんな小さい子に対しても、リスペクトすることが大切です。「何で子どもを尊敬しなければならないんだ」と思わないでください。一人の個人として認めてあげることが大切です。親の押しつけや無関心は子どもにとってよくありません。親ができないことを、子どもに強要するのではなく、率先垂範しながら、一緒に取り組む関係が理想です。ゲーム時間を話し合っただけなのに、なかなかやめない時には、子どもにどうしたら良いのかを聞きながら、とことん話し合うことが大切だそうです。子どもは、ほめられると自己肯定感が高まります。そして、何事にも前向きに取り組むようになります。親子関係もよくなり、人にも優しくできるようになります。ほめ方・しかり方の一助としてご活用ください。

令和4年度 浅茅野小学校学校評価

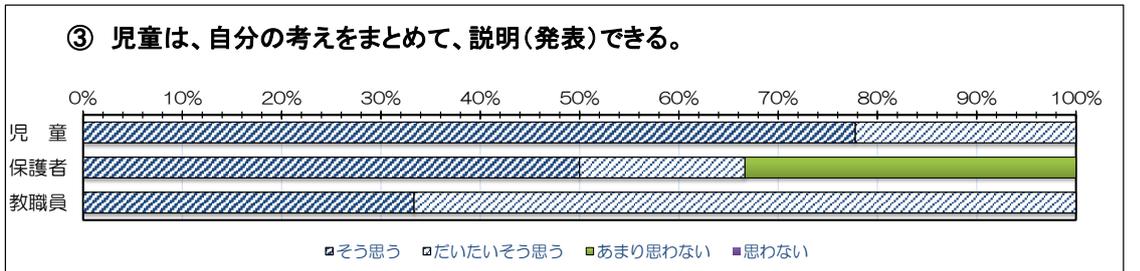
児童・保護者アンケート、教職員の自己評価を合わせて、グラフにしました。それぞれの項目で評価した結果をお知らせいたします。



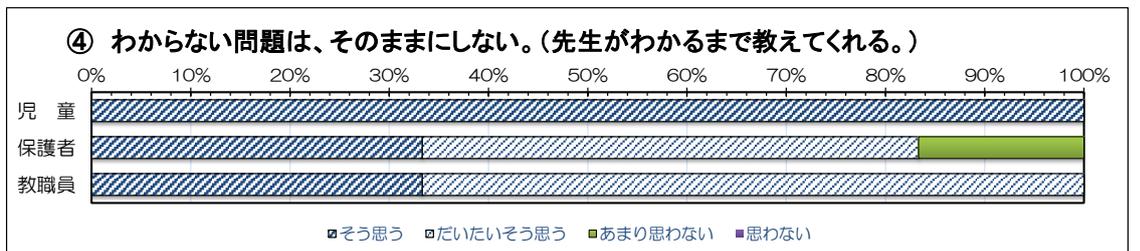
児童は、ほとんどの子が自分は漢字や計算ができていると思っています。保護者や教員は、だいたいできていると感じているようです。漢字や計算は、学習の基礎・基本なので、しっかり定着を図っていきます。



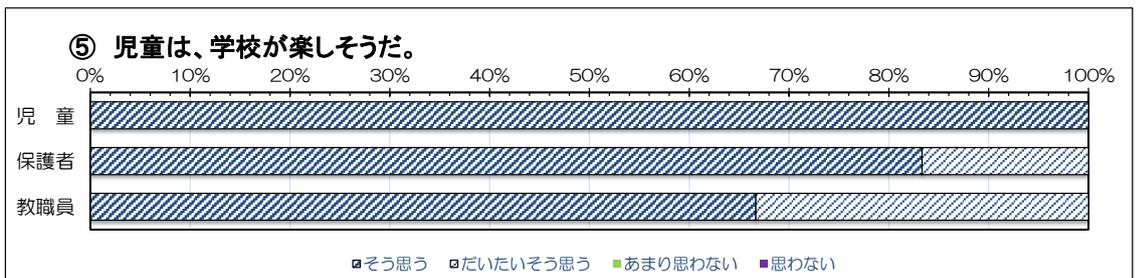
児童は、全員が人の話を最後まで聞いていると思っています。しかし、保護者や教職員は、できていると思っている人は少ないです。人の話を最後まで聞いてから、行動をすると失敗やミスが減ります。テストでも、自分で何を答えるのかを確認しながら取り組めるようにしていきたいです。



児童は、ほとんどの子が自分の考えをまとめて説明できていると思っています。保護者は、できていると思っている人が半数ですが、できていないと思っている人もいます。事前に考えた文を発表するだけでなく、その場で考えて話をするのは、訓練が必要です。授業においても、自分で仮説を立てて、課題を解決します。学校でも、どのように解決したのか、自分で説明できるような授業にしていきたいです。

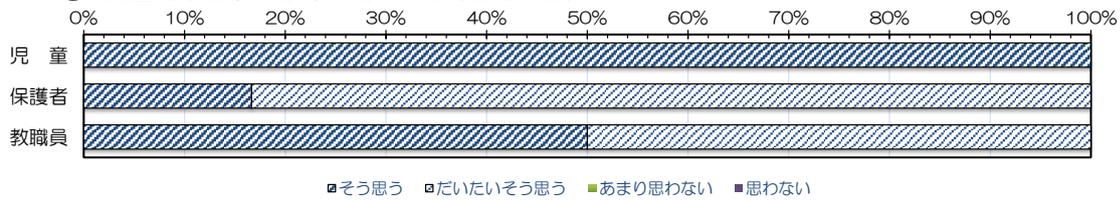


児童は、全員が先生がわかるまで教えてくれると思っています。学校では、児童が授業中に理解できなかったことを、休み時間や昼休みに教えています。しばらく理解できていることが、時間が立つと忘れてしまうことがあります。学力の定着を図るために、課題解決に向けて、自分で見通しを立てて、自力解決できる力を養うことや、家庭学習での自学学習による方法で進めていきます。



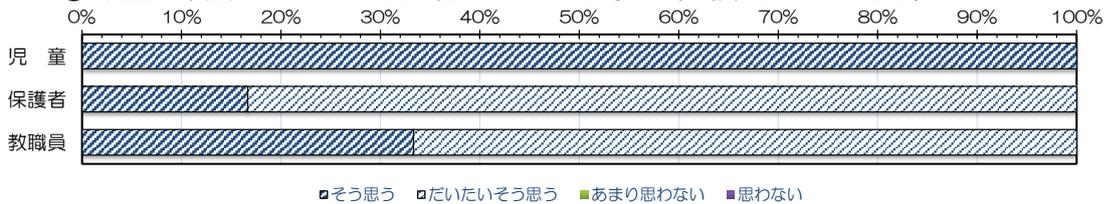
児童は、全員が学校が楽しいと思っています。保護者も教職員も学校は、児童にとって安心して過ごせる場だと感じています。しかし、たまに自分の思いや考えが強すぎて、児童同士でトラブルになることがあります。トラブルになった時は、教職員がお互いの話を聞きながら、早期解決をするようにしています。児童の変容を見逃さないようにしていますが、学校で気づかないこともありますので、何かありましたら、遠慮なくご連絡ください。

⑥ 児童は、返事や挨拶がしっかりできている。



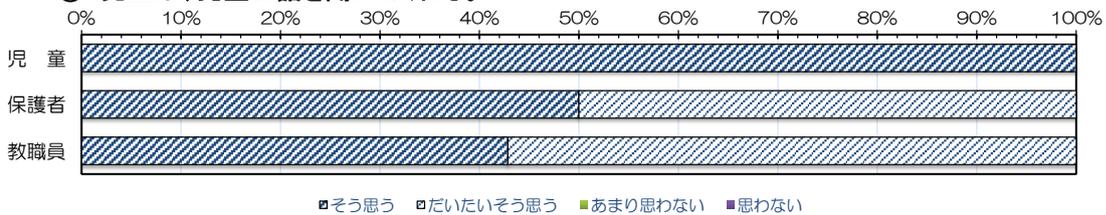
児童は、全員が返事や挨拶がしっかりできていると思っています。保護者や教職員も、だいたいできていると感じていますが、しっかりできているとは思っていないようです。返事や挨拶は、相手に親愛の気持ちを表す人の動作で、コミュニケーションとしての最初の第一歩だと言われています。社会生活を送る上で大切な作法の一つです。学校では、形式的な挨拶ではなく、笑顔で明るく、相手の目を見ながらしっかり挨拶ができる児童を育てていきます。ご家庭においても、一緒にいる時は、「おはよう」「いただきます」「いってきます」「ただいま」「おやすみなさい」などの挨拶を親と一緒にすることで、習慣となりますので、お願いします。

⑦ 児童は、自分のことだけでなく他の人のことも考えて行動することができる。



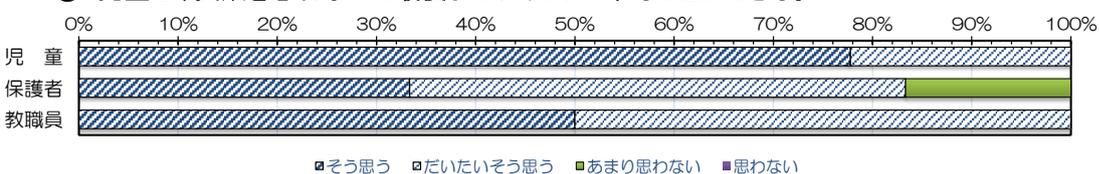
児童は、全員が自分のことだけでなく、他の人のことも考えて行動することができると思っています。しかし、保護者は、「だいたいそう思う」けど、そう思うとは、言えないご家庭がほとんどです。兄弟姉妹のいるご家庭では、子ども同士のけんかも、原因は些細なことが多く、どちらかが譲ってあげれば起きなかったことがほとんどです。学校では、道徳の授業以外にも学校生活を一緒に過ごす場面で、他の人のことを考えて行動しなければならない場面がたくさんあります。人の気持ちや考えを自分のこととして考えることのできる児童に育てていきたいと思えます。

⑧ 先生は、児童の話を聞いてくれる。



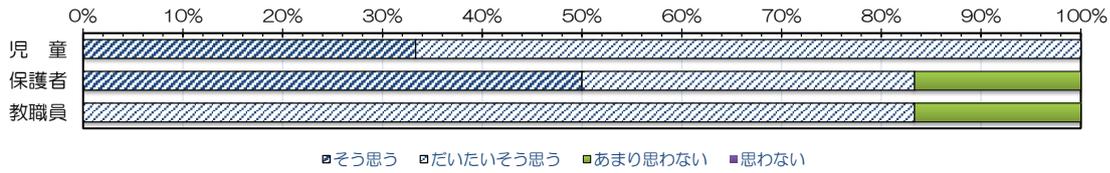
児童は、先生が自分の話をしっかり聞いてくれると思っています。保護者も子どもの話を聞いてくれていると感じているようです。時には、次の授業の準備などで忙しくて、話を十分に聞けないこともあります。学校では、日頃から子どもに寄り添った指導を続けていきたいと思えます。ご家庭でも、子どもの話に耳を傾けて話を聞いてあげてください。

⑨ 児童は、失敗を恐れずに最後までチャレンジすることができる。



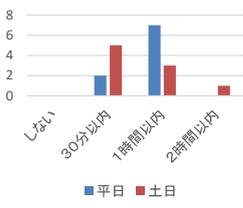
児童は、8割近くの児童が失敗を恐れずに最後までチャレンジすることができたとと思っています。しかし、保護者は3割で、教職員は半数が「そう思う」との回答があり、ほとんどの人は、「だいたいそう思う」となっています。学校では、授業で、「できた」「わかった」という小さな経験をたくさんさせて、自信を付けさせていきたいです。自己肯定感が高まれば、他のことにもチャレンジして努力することができるようになります。この正のスパイラルを繰り返し続けていきたいです。努力しているのに、結果がなかなか出なかったり、見えなかったりすることもあります。どんなことにおいても、真剣に取り組み、「失敗は、成功のもと」と思って、何度でもチャレンジする児童になって欲しいです。

⑩ 児童は、忘れ物をしない。



忘れ物をしないという項目で、児童は「そう思う」と「だいたいそう思う」と回答していますが、教職員は「そう思う」は0人で、「だいたいそう思う」と「あまり思わない」と回答しています。児童と教職員で忘れ物に対する意識の違いが、明らかになりました。授業で使う物であれば、学習が滞ることもあり、意欲も下がります。忘れ物が多い子どもの特徴として、「整理整頓を苦手に行っている子」「1つのことへの集中力がなく、気が散りやすい子」「準備を後回しにするくせのある子」などの特徴があるようです。心当たりがありましたら、「生活習慣を見直す」「部屋の整理整頓を行う」「肯定的な言葉を掛ける」を実践することで、改善が図れるようです。

家庭での学習時間



家庭での学習は、学力の定着を図るためにとても大切です。道教委では平日で学年×10+10分の学習時間を推奨しています。ただ、学習時間が長ければいいというものでもありませんが、集中して学習に取り組む意欲が必要です。家庭学習の内容ですが、市販のドリルを毎日続けたり、学校で学んできたことをノートにまとめたり、自分の苦手なことに取り組んでみたりすることが考えられます。子どものやる気を引き出すためにも、保護者の方には、子どもの頑張りを評価してほめてあげて欲しいです。

<国語>

- ・漢字の書き取り
- ・教科書の書き写し
- ・音読
- ・辞書を使って調べ学習

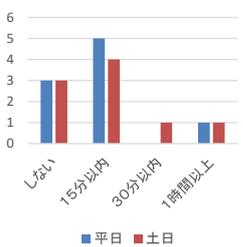
<算数>

- ・計算練習
- ・百マス計算
- ・分度器やコンパスを使って作図
- ・お金の計算

<その他>

- ・地図づくり
- ・新聞づくり
- ・英語(歌)
- ・楽器の練習

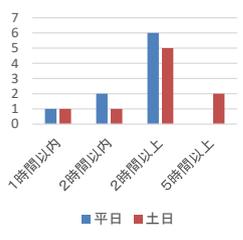
家庭での読書時間



読書は、文章を読んでその内容や意味を理解する「読解力」が向上します。読解力にはいくつかの種類があります。教科書を読んで何が書いてあるか理解できる、その内容を頭で再現できる学力としての読解力です。2つ目は、必ずしも正確に内容を頭で再現できなくても、それをきっかけとして、ものを見る構えができるようになる枠を広げるための読解力です。最後は、メディアリテラシーにも関係しますが、文章の中に書いてあることは、整合性がとれているけど、書いてあることが本当かどうかを考えながら読む批判的な読解力です。どれも、社会生活を送る上で、大切な読解力です。

学校では、子どもに興味のある本を購入したり、移動図書館のなかよし号の活用を呼びかけたりしていきます。ご家庭においても、ゲームやテレビを見る時間の10分間、親子で一緒に本を読む時間にしていただけたらと思います。

メディア時間



道教委では、テレビを見たり、ゲームをしたりする読書は、平日2時間以内を推奨しています。令和4年度に行われた全国学力学習状況調査の全道平均は、学習時間では、全国平均より2.8ポイント低く、ゲームをする時間は5.2ポイント高い結果となりました。平日で4時間以上ゲームをする児童が、22.4%いるそうです。浅茅野小学校においては、メディア時間が平日で2時間以上の児童が多いことや休日は5時間以上と回答した児童もいましたので、その時間の少しは、読書する時間にあてて欲しいと思います。ご家庭で、子どもとゲーム時間について、親子で話をしながら望ましい生活習慣や学習習慣の確立を図るためにご協力をお願いします。

<保護者のご意見>

- ・先生の話や、友達からのアドバイス、本に書いてあったことなどを参考に、より良くなるように自分で考えて取り組む姿が見られるようになりました。
- ・自分の事だけでなく、お友達の気持ちも考えられるようになり成長を感じました。

評価結果を真摯に受け止め、職員で話し合いながらより良い教育活動を進めて参ります。保護者の皆様、ご協力ありがとうございました。

10月行事予定

- | | | |
|----------------|----------------|-----------------|
| 1日(土)開校記念日 | 13日(木)職員会議 | 24~26日 個人懇談 |
| 4日(火)就学児童知能検査 | 14日(金)なかよし号 | 26日(水)食に関する指導 |
| 9日(日)学芸会 | 17日(月)鬼小交流(全校) | 28日(金)ハロウィン集会 |
| 10日(月)スポーツの日 | 18日(火)視力検査 2計測 | バイキング給食 |
| 11日(火)振替休業日 | 19日(水)視力検査 2計測 | 29日(土)PTA秋の廃品回収 |
| 12日(水)児童会 全校朝会 | 児童会 | |